

論文番号	9 (第10回研究会 2012.11.24 於青山学院大学)
タイトル	専門用語の意味をめぐる専門文献と一般向け文献の比較:「高分子」を構成要素とする複合名詞の意味形成
著者名(所属)	高野明彦 (東京工業大学大学院社会理工学研究科人間行動システム専攻修士課程学生)
連絡先 Eメール	takano.a.aa@m.titech.ac.jp
<p>論文内容</p> <p>(背景および研究目的)</p> <p>本研究は、専門文献と一般向け文献における同一の用語の使われ方を対照比較することにより、科学専門用語の用法と多義性を明らかにすることを試みる。「高分子」は化学および高分子科学において基本的な専門用語である。「高分子」を語構成要素とする複合名詞は、学術的な専門文献において多数用いられている一方、報道など一般的な文献でも見られる。しかし「高分子」とその関連用語には厳密な定義・用法の規定がないため、その複合名詞は解釈に曖昧性が残り、確実な情報伝達の支障となる。この問題を解決するための基礎的研究として、「高分子」とその関連用語を含む複合名詞中でそれらがどのような意味を有しているか調査した。</p> <p>(検討方法等)</p> <p>専門／一般向け文献として 2012 年の日本化学会講演予稿集¹⁾と 2011～2012 年の全国紙 5 紙の記事²⁾を用い、これらの資料から「高分子」および「低分子」を構成要素に含む複合名詞を抽出して意味ごとに分類した。</p> <p>(結果および考察)</p> <p>語構成要素「高分子」「低分子」の複合名詞中での係り受け関係を調査した。その結果、予稿集、新聞記事ともに「低分子」より「高分子」のほうが被修飾要素になりやすいと分かった。また、「高分子」「低分子」両要素とも、予稿集より新聞記事のほうが両要素が被修飾要素になりにくいと分かった。特に「低分子」が被修飾要素となる複合名詞は新聞記事中になかった。</p> <p>「高分子化」「低分子モノマー」などいくつかの複合名詞は文脈により「高分子」「低分子」がそれぞれ「高分子量」「低分子量」の意味で用いられていた。この例は予稿集、新聞記事ともに見られた。「高分子」「低分子」と「高分子量」「低分子量」は異なる概念であり、このような多義性があると筆者と読者の間で用語の解釈にずれが生じ、その結果確実な情報伝達が妨げられ得ると考える。</p> <p>(結論)</p> <p>専門文献と一般向け文献で「高分子」「低分子」の複合名詞中での用いられ方を調査した。その結果、両文献で係り受け関係に異なる傾向が見られた。また、いくつかの複合名詞において両文献に共通した多義性が明らかになった。</p>	
<p>参考文献</p> <p>1) 日本化学会第 92 春季年会 (2012 年) 講演予稿集 2) 朝日新聞、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞 オンライン記事データベース</p>	